

【事業名】^{うた}詩と^{くらし}生活とデザイン展

【事業実施内容】

1. 事業の概要

世界遺産登録当時のH19年には石見銀山に713,700人（島根県観光動態調査）の人が訪れたがR1年には観光客は265,300人まで減少しR2は新型コロナウイルス禍があり171,000人まで減少してしまっ

た。世界遺産の「石見銀山遺跡とその文化的景観」は3つの分野14の資産で構成され529haの面積があるが観光客の多くが訪れるのは、その一部で、しかも坑道跡の龍源寺間歩に集中している。その結果、坑道跡の間歩だけが世界遺産と誤解され、他の魅力的な部分が見逃され石見銀山全体での魅力が過小評価される弊害が起こっている。魅力の過小評価と客数の減少は悪循環を生んでいる。

エリア内には龍源寺間歩だけではなく石見銀山資料館、公開施設の熊谷家住宅、河島家などがある。これらの施設等では、それぞれで展示やイベントを企画しているが、展示やイベントを1つのテーマ「^{うた}詩と^{くらし}生活とデザイン」のもと連携することで来訪者の満足度と域内回遊を高める試みを実施した。



- 実施時期：2020年7月18日～2020年11月3日

本展示会の実施期間は当初2020年4月23日～2020年9月1日を計画していたが、新型コロナウイルス感染対策のため緊急事態宣言が2020年4月7日、7都府県に出され、その後4月16日には

対象が全国に拡大された。このため、緊急事態宣言発出中の実施は避け 2020 年 7 月 18 日～2020 年 11 月 3 日に変更し実施した。

- 実施場所：石見銀山大森町内の施設

石見銀山資料館、熊谷家住宅、河島家、無寂庵、群言堂本店、ひまわり館

参加作家：グラフィックデザイナー佐藤卓、グラフィックデザイナー葛西薫、写真家藤井保、詩人佐々木寿信、他

大森町並みの中に点在する施設を活用した展覧イベントを実施した。



2. 各施設等での展示

【石見銀山資料館】「コメの景」、「石見銀山の歴史」他

展示作家：佐藤卓／展示監修：仲野義文

日本の食卓に欠かせないコメの食以外の姿にも光をあて、稲作とともに発展してきた日本のコメ文化を見直す展覧会。コメという生活に密接にかかわっているものを様々な角度で可視化していくことで、来場者のデザインマインドを想起させることでより良い地域づくりのきっかけとなる展示とした。



【熊谷家住宅】「紙の化石」、「ひらがな立体」、「熊谷家と暮らしの中の紙たち」他

展示作家：佐藤卓、家の女たち

生活に密接している「ひらがな」を改めて可視化することで言葉と暮らしの関係性を見つめなおし、また熊谷家の常設展示も改めて見てもらうことで、より相乗効果のある展示を行った。熊谷家にある資料、紙、文字と現存している本物の紙の化石も合わせて展示し、現代と歴史を対比して楽しんでもらえるように表現した。



【代官所地役人 旧河島家】「MASS」、「道具にみる女性の身支度」他

展示作家：佐藤卓、家の女たち

通常的生活展示とともに佐藤卓氏の MASS を展示した。「MASS」とは、大量を意味する言葉で大量生産品に囲まれて暮らしている中で日常的に繰り返されている一瞬を形にした作品。江戸時代の生活と現代の生活の一瞬を対比することで、歴史の変化を感じ取る展示を行った。



【ひまわり館】「みんなの干支絵展」、「ひかり と かぜ の とおりみち」

展示作家：小野 哲郎、島根県立大田高等学校・写真部



【群言堂本店】「ササキとカサイとフジイの 海や花や空」、「泣き虫ピエロ」、「YUUGU」他

展示作家：葛西 薫、藤井 保、佐々木 寿信、山内 真澄美

大田市で長年暮らしながら、日常の詩をつづっている佐々木寿信氏の詩を中心に、そこにリンクした葛西氏の絵と藤井保氏の写真を合わせて展示した。



【無邪く庵】「暮らす彫刻奇譚 二人展」

展示作家：吉田 正純、吉田 満壽美



3. 小中高等学校への無料チケット配布

島根県教育委員会の協力で小中学校に約合計 5 万 3 千部の無料券を配布した。大田高校、仁万高校にはそれぞれ 500 枚、その他の施設に約 1000 枚の小中高校無料チケットを配布した。小中高生とその家族の来訪を促し世界遺産石見銀山の理解を深めて頂いた。また各館ばらばらに入館料を払うのではなく共通チケットで全館入れるようにした。



4. 共通チケット化の試み

今回の展覧会をきっかけに、地域内の有料施設の共通フリーパス化に取り組み、地域内の回遊性を高めることで地域内収益の向上を目指し、国内の来場者のみならず、近年増え続けている海外来場者に向けても分かりやすいサービス設計を目指し満足度の高い取り組みにしていく。期間中、龍源寺間歩、貸自転車を含めた共通チケットの実験を行った（詳細後述）。

【事業実施効果】

1. 来場者数

データの比較できる 8 月、9 月、10 月を前年と比較した。緊急事態宣言が出され観光客が激減しており 8 月は対前年比で 66%となったが 9 月 100%、10 月は 138%の来場者があった。8 月は、コロナ、猛暑などで厳しい結果だったが 9 月は GOTO キャンペーンの影響で流れが変わってきて前年に近い数字になった。10 月はメディア掲載や約 700 枚の前売りの駆け込みがあり前年比 138%の数字が得られた。

入館実績(客数)		8月	9月	10月	合計
資料館、熊谷家、河島家、群言堂	本年	3311	3710	5350	12371
	前年	5010	3724	3867	12601
	対前年比	66%	100%	138%	98%

※熊谷家は喫茶除く

※群言堂はレジの客数を入力しているので、入館実績ではありません。

施設毎の入館者を前年比で見ると下のようになる。

【 8 月前年比：資料館 49%、熊谷家 53%、河島家 79%、群言堂 89%。】

【 9 月前年比：資料館 92%、熊谷家 96%、河島家 120%、群言堂 102%】

【10 月前年比：資料館 127%、熊谷家 145%、河島家 190%、群言堂 128%】

各施設とも 8 月 9 月 10 月と対前年比が増加しているが、増加の割合には施設毎のばらつきも見られた。8 月の河島家の落ち込みが比較的少なく、9 月 10 月の増加率は施設中最も大きかった。共通券の効果があったものと思われる。8 月の群言堂の落ち込みが少ないがこれは他の飲食店が休業した影響もあると思われる。

2. 共通券による効果

本展では各施設が連携し 1 枚の共通券で各施設に入場することができるようにした。これまで、有料施設では 1 つの施設しか入らなかった人が共通券により複数の施設に入るようになり地域内の回遊が生じた。河島家の入館者数が増えているのは共通券の効果によるものではないかと思う。

10 月はデザイン展を目的に来訪する人が明らかに多く、これまでと違う層の客が増えていた。その人たちが熊谷家や河島家に入って施設のすばらしさを認識したことも大きな効果であった。

3. 共通券実証実験

大田市、龍源寺間歩に協力頂いて貸自転車弥七と龍源寺間歩を含めた割引チケット販売の実験を行った。下表のように通常 2710 円を 2000 円にして試したが、龍源寺間歩ではデザイン展のチケットの半券を提示すると 110 円引きになるなど、仕組がわかりにくくお客さんに伝えるのに時間がかかった。わかりやすさをどう作るかが課題となった。

	通常価格	特別価格
龍源寺間歩	410 円	300 円
電動自転車レンタル (2 時間)	700 円	700 円
延長 1 時間	400 円	無料
ウォーキングミュージアム	1200 円	1000 円
合計	2710 円	2000 円

4. 連携取組

連携先	連携内容
石見銀山世界遺産センター	ウォーキングミュージアム番外編開催
ガイドの会	NHK ラジオで安立さんが紹介
大田市	公式ラインアカウントで配信
島根県教育委員会	島根県内の小中学校に無料クーポン付きチラシの配布

5. メディア掲載

大田市が広告枠を無償で提供、足立さん(ガイドの会会長)がラジオで紹介など、多数のメディアで取り上げていただきました。

日付	メディア
7 月 25 日	山陰中央新報 銀山の町、丸ごと美術館
8 月 4 日	山陰中央新報 銀山イベント出展へ意欲
9 月 19 日	中国新聞 芸術 300 点、見て歩こう
8 月 7 日	島根日日新聞 ぎんざんテレビ
7 月 11 日	BSS 生ラテ 放送
8 月号	広報おおだ 裏面広告枠
9 月号	広報おおだ 裏面
9 月 24 日	NHK ラジオ ガイドの会から紹介
9 月 7 日	JDN ジャパンデザイン情報サイト
10 月 16 日	NHK 松江 放送
10 月号	ミセス



山陰中央新報



中国新聞



NHK 松江



広報おおだ 9月号

6. 口コミ (SNS の反応)

期間中のインスタグラムハッシュタグ数 #石見銀山ウォーキングミュージアム 146件、共感頂いたコメントが多数あった。9月下旬から10月に投稿が目立ってきた。「町全体が会場」とガイドに紹介していただいた。

